

## 特別講演

### 透析スタッフは患者と社会にどう向かい合うか ～良質の透析、命の継続と終焉、社会への願い～

札幌北クリニック 大平整爾先生

#### 透析療法の限界：

現在の腎機能代替療法は、精緻・巧妙な生体腎の機能を完全に代行できるものではない。確かに最長透析歴40年の患者を生み出し10年以上生存者は26%にまで達しており、大きな成果をもたらしたことは周知の事実である。しかし、透析療法のこの進歩・発展は皮肉なことに、対応に苦慮する各種の合併症を招来したことであった。私共透析スタッフは、これに派生した諸問題を究明していくべき責務を課せられている。

#### 良質の透析：

これには多数の懸案事項が蓄積しているが、この発表では(1)個別的透析(2)血管アクセス(3)nutritional rehabilitation (積極的栄養補給)の重要性について言及したい。

#### 命の捉え方：

現代医療の根幹を成す自己決定権の故に、命を生きるに値すると捉えれば「生きる権利」が生まれる。しかし、その対岸には命を生きるに値しないとして微妙な「死する権利」や更に更に微妙な「死すべき義務」が涌出してくる。これには、患者・家族・医療者・社会で異なった視点も出てくるものであり、質によって生命を序列化し死への廃棄へと導く思想への懸念も回避できない。「命の質」に対して、社会全体が真摯に話し合う気運が生まれなければならないであろうし、ここには道義的・倫理的・社会経済的観点のみではなく、法律的な視野が加味されなければならない。

#### 命の終焉：

その上で、治療の見送り(透析非導入)や治療の差し控え(透析中止)が真剣に論議される必要がある。透析患者の尊厳死、自然死、安楽死を医療者としてどう理解し行動するかは、患者の高齢化・透析の長期化などで加速的に急務の課題となってきている。この問題は単に道義的・倫理的な側面だけではなく医療経済的な断面を無視できなく、「無益な医療」というものへも思いを馳せねばなるまい。

#### 医療倫理：

①倫理の原則を確立し、これを医療の現場に徹底させる段階を経て、②人の生命誕生と終焉を巡る諸問題が理論的かつ実務的に論じられてきた。③今や患者の自己決定権という

確かに重要であるが素朴な主張を提示するだけで事足りる時代は終わりを告げ、ある倫理の実践に際して経済の仕組みをどのように再構築していくことが可能であるかが問われる“BioethicsのEconomization”“Bio-politics”の時代へ突入したと認識する必要があるであろう。

#### 社会への願い：

上記の諸問題の検討には、社会（市井の人々）の参画が欠かせられない。タブー視されていた「死を語ること」が医療者、患者・家族、社会の間で自然発生的に無理なく行われることを期待したい。この局面において、医療者は父権主義とご都合主義を捨て去り、善意の第三者として公平無私な助言を最大限患者側に与えられる力量を備えることを期さなければならないし求められてもいる。

#### 大平整爾（おおひら・せいじ）略歴

1937年12月9日生まれ、北大医学部 1962年卒業

東京都立川市米国空軍病院インターン 1963年終了

北大医学部大学院1967年終了、同年 医学博士号取得

カナダ・トロント大学生理学部研究員：1969—1971年

岩見沢市立総合病院外科・透析センター勤務：1972—1997年

医療法人社団カレスアライアンス日鋼記念病院院長 1997—2002年

医療法人恵水会 札幌北クリニック院長 2002年4月以降、現在に至る

1988年「慢性腎不全の研究・治療」に対して、北海道知事賞・北海道医師会賞授与

2007年 厚生労働大臣表彰、札幌市医師会学術賞授与

「専門分野」胸部・腹部外科、腎不全外科、透析療法一般、医療倫理

「所属学会」：外科学会、日本透析医学会、人工臓器学会、医工学治療学会、腎臓学会、腹膜透析研究会、サイコネフロロジー研究会、腎不全外科研究会、アクセス研究会、消化器外科学会、急性血液浄化学会など。

#### 「現在の役職」

日本透析医学会：倫理委員、学術委員、理事長（2000—2002年）、名誉会員

日本透析医会：常任理事（副会長）、日本腎臓財団：常任理事

腹膜透析研究会：顧問、アクセス研究会：代表幹事、VAIVT：代表幹事

サイコネフロロジー研究会：幹事、腎不全外科研究会：幹事

急性血液浄化学会：名誉会員、臨床透析編集委員、道透析医会：会長

北海道透析療法学会：会長（1993—2005）・名誉会長、北海道高齢者透析研究会：会長

北海道大学医学部：客員教授